

「共に生きるとは」 1月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

「あの人はウマが合う（合わない）」という言い方をしばしば聞きます。毎日、多くの人と接していれば、気の合う人もいるし、そうでない人もいます。中には、どうしても自分と意見や考え、価値観の合わない相手はいるものです。そして、自分と似た考えの人は喜んで受け入れますが、違った価値観を持つ人に対しては、気が合わないと思ひ込み、積極的に話しかけようとはしなくなります。私たちは、つい自分の価値観で全ての人を判断しがちです。

普段の生活の中では、同じ基盤にある者同士が集まって、行動したり、考えたりすることが多く、同じ行動や考えをしない者を避けようとする傾向があります。これは、自分と同質でない者をよそ者として排除し、認めないという人

権侵害につながることがあります。

社会は、自分と同質の者ばかりで構成されているわけではありません。「違い」があることをお互い認め合うことが大切です。違いには性や肌の色、思想、信条、文化、慣習などさまざまなものがあります。それぞれの違いを認め合い、お互いに尊重し合うことが、人権を普遍的文化として根づかせることにつながります。私たちは、誰もが幸せに暮らしたいと願っています。幸せに暮らせる社会は、みんなの人権が守られる社会です。人は、社会の中で1人だけで生きているのではなく、お互いに支え合って生きています。自分中心で相手の人権を顧みないようでは、真に人権が尊重される社会をつくることはできません。日常生活のあらゆる言動に人権を大事にする気持ちが自然と溢れているような社会にす

るためにも、共に生きることについて考えることが大切です。

